

令和6年7月17日

若園地域会議
会長 石川 尚之 様

豊田市長 太田 稔彦

検討結果報告書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問し、答申を受けたことについて、下記のとおり報告します。

記

- 1 報告事項 令和6年1月17日に若園地域会議から受けた『（仮称）ミライ構想』のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造に関する答申についての検討結果は別紙のとおり
- 2 主管課名 企画政策部 企画課、都市計画課

若園地域会議からの答申に対する検討結果

1	答申内容	1 将来都市像 今回の方向性では「変える」を重点にしているので「つながる つくる かえる暮らし楽しむまち・とよた」と表現したほうがよい。
	市の考え	将来像については時代が変わっても大切にしたい姿として掲げるとともに、子どもを含め誰もが共有できる言葉で示すことを意識しており、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を継承することを考えています。 また、「かえる」については、まちづくりの基本的な考え方において、「見方を『変える』『思考を『変える』『行動を『変える』の3つの『変える』を掲げ、これまでの在り方を当たり前とせず、常に考え方を柔軟に変えていくとともに、一人ひとりが主体的に挑戦や行動に一步踏み出せる環境づくりを目指すことが必要であると考えており、「(仮称)ミライ構想」の本文に記載していく考えです。
2	答申内容	2 めざす姿 (1) 継承 ・「持続可能なまち」とは具体的に何を示しているのか判らない。 ・具体性を持たせるために「つながり」に「高齢化」「お年寄り」も加えるべきである。 ・文章が長すぎる。「持続可能なまちを実現。そのために、多様な人と人、人と地域、人と自然とのつながりを通じた「認め合い・気づき・学び合い」がますます重要。」とする。

	市の考え	・人口減少や気候変動、地震や水害といった自然災害など本市の経営を取り巻く様々なリスクを想定し、いかなる場合でも、持続的に都市経営（扶助費や維持管理費など必要となる義務的経費の確保や一定の政策的経費が担保できる状態）に取り組む必要があると考えています。 ・「高齢者」の視点については、第8次豊田市総合計画において、2025年問題への対応を含め「超高齢社会への適応」を特に重点的に取り組むべき施策として、様々な対策を講じ、超高齢社会に必要な仕組みや体制などの整備を進めてきており、今後においては、そうした体制などを維持・改善するために必要な取組を適切かつ着実に推進していきます。 なお、「（仮称）ミライ実現戦略2030」では、人口減少といった変化を踏まえ、次代を担う「こども」視点を重視し、高齢者に対しても、これまでの施策の推進に加え、人生100年時代に必要な取組を検討していきます。 ・文章の長さや表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。また、計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。
3	答申内容	（2）深化 ・表現が難しく長い、もっと簡潔にしてはどうか、例えば「しなやかに変化し続け」を取り、「まちを能動的かつ」からの文章を「変化を先取りしていくことが重要。そのために、変化を前向きに受容し、さらに一歩踏み出し、心豊かな社会を実現していくことが必要。」としてはどうか。 ・「全体的に日程感をもって進める意識が重要」の文言を追記してほしい。

	市の考え	・文章の長さや表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。 - また、計画自体についても、市民の皆様にとって分かりやすい計画とするとともに、手に取りやすい図書となるよう工夫していくほか、動画など様々な媒体を活用しながら、まちづくりの方向性を市民の皆様と共有していく考えです。 ・ご意見のとおり、スケジュールについては、具体的な施策や事業の進め方も含め意識を持って取組を進めてまいります。
4	答申内容	3 まちづくりの基本的な考え方 (1) 継承 ・「発想の転換」を「発想の拡大」の表現にしてはどうか。 ・足し算ばかりではなく引き算の表現も必要ではないか。 ・「多様な主体が」の主体を判り易い表現にする。 ・未来に残すべきもの（歴史的建造物、伝統文化）は残すように表記する。
	市の考え	・第9次豊田市総合計画では、これまでの考え方から「変える」ことを意識しており、「発想の転換」と表現しています。 ・「基本的な考え方」において「引き算」の表現はありませんが、ご意見のとおり、例えば事業評価においては、廃止・見直しの「引き算」も重要と考えています。 ・多様な主体とは、市民一人ひとりはもちろん、自治区や地域コミュニティをはじめ企業や各種団体、市民活動団体や大学、高等専門学校などの学生、外国人、本市に在住・在勤はしないがまちに関わっている関係人口など、様々な単位・属性全てを包含するものと捉えています。 ・本市の歴史や文化、芸術や自然といった本市の多様な価値や魅力をミライに継承できるよう、具体的な取組について、「(仮称)ミライ実現戦略2030」で検討していきます。

5	答申内容	(2) 深化 ・「変える」という言葉にこだわりすぎなので、項目を「固定概念の払拭」「市民目線の思考」「主体的な行動」にしてはどうか。 ・3つの「変える」の各項目の主体が明確でないため分かりづらい。 ・変えるという発想は責任を生じるものであると考えられ、明確にすべきである。 ・「変える」を意識するだけでは何も変わらないと思う。
	市の考え	人口も経済も右肩上がり成長してきた「成長社会」の時代から「成熟社会」の時代へと転換が図られてから久しくなりましたが、本市のまちづくりにおいても、いよいよ人口減少社会を前提とした発想や手法、仕組みが必要になっていることから、まちづくりの基本的な考え方として、「見方を『変える』」「思考を『変える』」「行動を『変える』」の3つの『変える』が重要であると考えています。こうしたことで、これまでの在り方を当たり前とせず、常に考え方を柔軟に変えていくとともに、一人ひとりが主体的に挑戦や行動に一步踏み出せる環境づくりを目指すことが必要であると考えており、様々な方が関わるまちづくりを進める上での行動規範として「(仮称)ミライ構想」の本文に記載していくことを考えています。
6	答申内容	4 都市構造 (1) 生活 ・人生100年時代を支える生活支援が必要である。 ・山村部の高齢化が進む中、都市部のみの表記ではなく山村部の表記も必要である。

	市の考え	・人生100年時代を支えていく将来都市構造の要素としては、「商業・福祉等の機能の集積」と「公共交通等の充実」が重要であると考えています。拠点や鉄道駅周辺への都市機能や居住の誘導により、既存の公共交通を生かした、歩いて暮らせる利便性の高いまちの実現を目指します。 ・将来都市構造は、都市部だけでなく山村部も含めた市域全体を指すものであるため、ご意見を参考に山村部に関する表現方法について検討します。
7	答申内容	(2) 産業 ・生活道路と産業道路を兼ねることで交通渋滞が起き、生活・産業両方の利便性が損なわれることにならないか。 ・円滑な事業継承の支援が必要と思われる。 ・自動車だけでなく豊田市には良い自然があるので、自然を活かした農業と林業の産業化が必要である。
	市の考え	・物流などの産業活動による交通を受け持つ幹線道路は、2つの環状線と8つの放射状道路によるネットワークとして計画しており、生活交通との交錯が極力生じないように計画しています。また、広域な交通は高速自動車道等の高規格道路が受け持ち、その特性を生かしてインターチェンジ周辺への産業集積を図っていきます。 ・今後5年間で特に注力する取組の方向性をとりまとめる「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、市内事業者の持続可能性向上に向けた取組の支援を検討するとともに、山村部を支える持続可能な仕組みづくりや暮らしを守る自然環境の適正な保全について、これまでの都市と山村の交流による関係人口の創出や地域の担い手確保といった取組に加え、今後注力すべき取組について検討しています。

8	答申内容	(3) 移動 ・ 豊田市駅まで名鉄三河線の高架化も必要と思われる。 ・ 新たに駒場・堤小学校区を通過する鉄道路線の新設も必要と思われる。 ・ 市街地と山村地域を分けて方針を立てる必要がある。 ・ 全体的に優しい表現にして欲しい。
	市の考え	・ 名鉄三河線の鉄道機能の強化について、高架化に限定せず速達化等、様々な手法を組み合わせた検討を進めています。 ・ 当面、注力すべき方向としては、名鉄三河線の鉄道機能の強化であると考えています。鉄道機能強化には乗降客数の増加も不可欠ですので、三河線沿線のまちづくりにより鉄道沿線への居住誘導を図り、こうした公共交通を沿線居住者で「乗り支える」ことも必要であると考えます。 ・ 都市部・山間部における暮らしの質の維持・向上を図るとともに、各地域の特色を生かしたまちづくりを進め、それぞれの拠点が連携することで市域全体の活力や新しい価値を創出していきたいと考えています。 ・ 表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。
9	答申内容	(4) 自然 自然をどのように守るのか具体的な方策を明記してほしい。
	市の考え	・ 身近な自然については、都市に必要な緑として位置づけるとともに計画的に保全を図り、山村部の豊かな自然については景観や産業・観光資源として活用・保全を図ります。具体的な取組については「(仮称) ミライ実現戦略2030」等の中で検討していきます。

10	答申内容	(5) 防災 ・防災リーダー等（各地区の消防団など）の人材育成が必要である。 ・災害時に、車の電池を活用した給電なども考える必要がある。 ・防犯も交通安全も大事。「防災」ということばより「安心・安全」のほうが前向きなことばだと思う。 ・地元企業との連携強化が必要である
	市の考え	・「防災」の視点は、安全・安心な暮らしを支える非常に重要な視点であり、都市の骨格や土地利用の方針を示す「将来都市構造」の中ではなく、「(仮称) ミライ実現戦略2030」において、取組方針「ともにミライにつながるまちをつくる」の考え方として、「子どもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくる」として、取組の前提として示していきたいと考えています。 ・なお、地域での人材育成は重要と捉えており、地域力を発揮し、共助により防災力を強化する取組について、検討を進めます。 ・一部避難所となる体育館においては、PHV車や発電機などの外部から電源を取り込み、照明やコンセントに電源を供給する仕組みは既に取り入れており、引き続き、防災・減災を支える基盤づくりに向けた取組を検討していきます。 ・また、避難スペースの確保や災害時の支援協力など、民間との共働は必要であるため、今後も連携を深めていきます。

	答申内容	(6) その他 ・もっと飛躍的な表現がよい。 ・三河八橋駅や四郷駅は区画整理事業も進み、「えきちか居住誘導エリア」に該当するので「都市拠点」として表記してはどうか。 ・鉄道だけではなくカーシェアリング等、交通弱者の問題も取り上げるべきである。 ・防犯等「安全・安心なまち」の項目も必要であり、青色防犯パトロール活動の継続と活動への支援が必要である。
11	市の考え	・表現については、市民の皆様が理解しやすい説明や表現を工夫していきます。 ・四郷駅周辺は猿投駅周辺エリアと一体となる都市拠点として位置づけています。三河八橋駅周辺については機能の集積状況を踏まえ、総合計画の中では都市拠点として位置づけることは考えておりません。 ・拠点内の移動は「生活交通」として、それぞれの地域の特性に応じた持続可能な移動サービスの実現を目指していきます。 生活交通は、地域の実態に合わせて「自助・共助・公助」による様々な手段を組み合わせることで、多様なニーズに対応した移動の確保を図っていきます。 ・「防犯」の視点は、安全・安心な暮らしを支える非常に重要な視点であり、都市の骨格や土地利用の方針を示す「将来都市構造」の中ではなく、「(仮称)ミライ実現戦略2030」において、取組方針「ともにミライにつながるまちをつくる」の考え方として、「子どもたちにとって安全・安心で持続可能なまちの基盤をつくる」として、取組の前提として示していきたいと考えています。

	答申内容	5 ミライ実現戦略2030 ・「郷土愛」も入れるべきである。 ・「こども」「高齢者」は外すことはできない。 ・豊田市は「SDGs 未来都市」なのでSDGs の関連目標も入れてはどうか。 ・老人の憩いの場所を作ることも必要である。
12	市の考え	・ご意見のとおり、地域住民の交流等による「つながり」を通じ、多様な価値を創出するとともに、市民一人ひとりが地域に愛着や誇りをもち、地域の魅力を次代を担うこどもたちにつないでいくことが大切であると考えます。 ・なお、「(仮称) ミライ実現戦略2030」では、人口減少と言った変化を踏まえ、次代を担う「こども」視点を重視し、高齢者に対しても、これまでの施策の推進に加え、人生100年時代に必要な取組を検討していきます。 ・SDGsの推進については、「(仮称) ミライ実現戦略2030」の取組目標の一つとして「脱炭素社会の実現に挑戦する」を掲げ環境問題等に注力することを検討しています。 ・「(仮称) ミライ実現戦略2030」において、地域・多世代でともにつながり合い、自分らしく暮らせるよう、取組を検討していきます。